



絆

きずな

平成26年9月
第44号
荒川区立南千住第二中学校
校長 齊藤 進

ナンちゃん・ニーくん



心を磨くこと ～「自分から」を心がけよう～

校長 齊藤 進

全米オープンテニス大会で錦織圭選手が決勝戦に進み、惜しくも敗れましたが準優勝という歴史的快挙を達成しました。これにより世界のトップ10に入ることになりましたが、その偉業に対して日本中が大きな拍手を送っていると思います。

錦織選手のコーチとなったマイケルチャン氏はかつて全仏オープンで優勝しました。チャン氏は錦織選手に徹底した反復練習とメンタルの強さを教え込んだと伝えられています。このことは普段の勉強や部活動などにも通ずることだと思います。

錦織選手はまだまだ若いので、これからは全豪、全仏、全米、全英(ウィンブルドン)の4大会で優勝するチャンスが大いにあると思います。錦織選手の健闘を祈ります。

この夏休みに、ある講演会で心を磨くことの大切さを学びました。たとえば、自分からあいさつをしたにも関わらず、相手があいさつをしなかったらどうでしょう。腹が立ったり、気分を害したりするかも知れません。しかし、それではまだ未熟だといえます。相手は関係なく、つねに自分からあいさつする人間であれということです。誰かに評価してもらいたいために人がいる前でゴミを拾う、ではなく誰もいないところでゴミを拾える人間であれ、ということです。それが心を磨き、人間を磨くことになります。



サッカー元日本代表の小野伸二選手を中学時代に指導した先生に直接お話をうかがう機会がありました。小野選手が一人食堂に残り、黙々とテーブルを拭く姿を何度も目にしたそうです。甲子園を沸かせ、西武ライオンズにドラフト1位で入団した菊池雄星投手は高校時代トイレの便器を人知れず磨いていたそうです。プロ野球読売ジャイアンツの坂本選手から寄付されたたくさんの災害用の支援物資が日本赤十字社の倉庫に保管されていたことを先日目にしました。

良い行いを実践している人は自然と心が磨かれ、それとともに技術も向上していくような気がします。

自分から先にあいさつができる人になりましょう。人のために善行を心がけることのできる人になりましょう。

本校では、広島土砂災害に際し、募金活動を行いました。JRC委員会を中心に生徒が自ら何ができるかを考えた取り組みです。ご協力ありがとうございました。



2学期 始業式

9月1日(月)は2学期始業式でした。夏休み中大きな事故もなく、全学年が元気にそろいました。始業式の中では校長先生のお話につづき、全校生徒で力強く校歌を斉唱しました。2学期の学校生活が活気に満ちたものになることが期待されました。

この日は「防災の日」でもあり、雨天のため縮小されましたが、下校時には、地域別班による集団下校訓練も行いました。

始業式 全校での校歌斉唱



1年生 清里移動教室

1日目 美し森展望台で学年集合写真

夏休みが明けてすぐ、9月3日(水)から5日(金)の2泊3日、1年生清里移動教室が行われました。始業式翌日にはさっそく大きな荷物を持って登校し、翌日の出発に向けて最後の準備と確認をしました。最近の天候不順の影響か、今年の清里高原は小雨模様で肌寒く感じるほどの気候でした。しかし、その中でも1年生は、楽しく元気に活動しました。



1日目はバスで学校を出発し、約3時間かけて「清泉寮」に向かいました。清泉寮では持参したお弁当を広い草原でおいしい空気とともにいただき、昼食後は「美し森展望台」までのオリエンテーリングを行いました。班ごとに出発し、ポストを探しながら歩きました。途中に設置された「南二中オリジナルポスト」の課題をクリアしながら、全班が迷うことなくゴールしました。夜はレク係が夏休み中にも準備してきたレクリエーション大会で盛り上がりました。



2日目 小雨に負けず元気にハイキング

2日目は車山高原・八島湿原のハイキングを行いました。時より雨がぱらつきましたが、ひんやりした空気に包まれながら、予定通りの行程を歩ききりました。夜は「ナイトハイク」を行いました。真っ暗闇の中、レンジャーの方の案内で森の音に耳を澄ませ、自然の雄大さを感じることができました。

最終日は花の森公園で農作物の収穫体験をしました。キュウリやトマト、ナス、トウモロコシ、ジャガイモなど、収穫した作物は家へのうれしいお土産になりました。

1年生は、「絆を深める」ことを目標に清里移動教室に臨みました。思いやりをもち、集団生活とあいさつを意識しながらたくさんの思い出をつくった3日間でした。



3日目 農作物をたくさん収穫

セーフティ教室

7月14日(月)1校時に、セーフティ教室が行われました。今回のテーマは薬物乱用防止でした。この日は荒川保健所の保健師さんと、実際に薬物中毒に陥り、更正施設「東京ダルク」に入所し、現在は同施設の職員として働く方にご来校いただき、薬物乱用の恐ろしさを体験から語っていただきました。

昨今、覚醒剤等の禁止薬物だけでなく、「危険ドラッグ」などが社会問題として取り上げられています。薬物の魔の手はすぐそこに迫っているのが現状です。また、市販の薬を目的外に使用したり、医師の処方箋以外で薬を使うことも薬物乱用に当たります。悪の誘惑に負けない確固たる意志と正しい知識を身につける大変良い機会になりました。



レスキュー部

保育園合同避難訓練・普通救命講習

夏休みの8月22日(金)午後、レスキュー部員対象の**普通救命講習会**が行われました。この講習会は東京消防庁によるもので、正式な救命士の取得講習会です。参加したレスキュー部員は102名。全員が3時間にわたる講習を修了し、南千住二中に**102名の普通救命士**が誕生しました。9月8日(月)の全校朝礼では認定証が授与されました。

講習では、心臓マッサージ、人工呼吸、AED使用実習、またそれらを総合的に行う人工蘇生法などを行いました。当日はかなり暑い日で、アリーナもかなりの室温・湿気でしたが、レスキュー部員は一生懸命取り組んでいました。万が一の災害時などで、南千住二中のレスキュー部員が救命士として活躍することが期待されます。



夏休み前の7月14日(月)には、南千住七丁目保育園と南千住二中レスキュー部の**合同避難訓練**が行われました。これも、万が一の災害時に南千住二中が避難所になった場合を想定して、近隣の保育園の園児を安全に避難所まで誘導し、保護することを目的とするものです。当日はレスキュー部員が保育園に園児を迎えに行き、手をつないで南千住二中まで誘導しました。その後、畳が敷いてあるトレーニングルームでカルタやおもちゃと一緒に遊び、園児たちの不安をなくす工夫をしました。園児たちも次第に笑顔になり、すっかりリラックスしてくれました。

大きな災害時に中学生に期待されていることはたくさんあります。レスキュー部の活動はその意味でも大変注目されています。

しっかり手をつないで安全に誘導

参加102名 救急法を学ぶ

JRC(青少年赤十字)活動

三首都交流会・都トレセン

7月21日(月・祝)から26(土)に、青少年赤十字(JRC)の**三首都交流会**が行われました。三首都とは東京・北京・ソウルの3カ国の首都のことであり、それぞれの都市のJRCメンバーが集まり交流を深め、国際理解や国際交流、国際協力を進めようとするものです。今年は韓国・ソウルで行われ、南千住二中から、3年生男子1名が東京代表の一人として参加しました。

自国の紹介や活動を報告したり学校生活の話など、フレンドリーな雰囲気の中で数々の交流を進めました。6日間の交流会では、朝鮮王朝の王宮・景福宮を訪れるなど韓国の史跡や文化を学ぶことも行いました。

会が終わる頃には、北京・ソウルの参加者とすっかり仲良くなりました。同じ年代のお互いを理解し、協力できることを確かめ合う、とても有意義な6日間でした。



交流を深めた3カ国のJRCメンバー



また、8月11日(月)から14(木)には、JRC東京都**リーダーシップ・トレーニングセンター(トレセン)**が、山梨県「富士緑の休暇村」で行われました。このトレセンには南千住二中から3年生男子2名、1年生女子5名の計7名が参加しました。この会は、文字通りJRC活動のリーダーを養成するための研修会で、東京都内で活動する各区市の中学校のJRCメンバーの代表が集まり行われるものです。4日間の研修の中では、救急救命法や傷病者搬送、炊き出し実習、屋外レクリエーションの企画・運営、メンバー同士の交流などが行われました。最後の夜にはキャンプファイヤーなども行い大いに盛り上がりました。このトレセンで経験したことは、今後の南千住二中のJRC活動にも活かされていくことがまちがいありません。参加者の皆さんごきょうさまでした。

道徳授業地区公開講座



9月13日(土)の学校公開日にあわせ、道徳授業地区公開講座が行われました。1年生は、助産師さん・赤ちゃんをご両親にご来校いただき「**命の尊さ(生命尊重)**」を、2年生は、絵本・ぼくを探しにを題材に「**個性の伸長**」、3年生は、地域の教材・汐入再開発にかけた思いで「**集団生活の向上**」の授業を行いました。授業後は参観していただいた方々と先生方で意見交換会も行いました。ご出席いただいた皆様、ありがとうございました。

わくわく街歩き探検隊

9月14日(日)、毎年恒例になった「わくわく街歩き探検隊」にボランティアガイドとして、南千住二中の生徒が参加しました。ガイドを務めたのは南千住検定マイスターの称号をもつ3年生男子2名をはじめとする3年生10名、2年生9名の計19名です。

回向院や円通寺、赤レンガ塀など、19人が手分けをして地域を巡ってきた小学生に説明をしました。南千住二中の大鯉や発電所模型も見学地の1つになっています。

さすがに地域を語る南二中生と、会を主催する方々からも毎年お褒めの言葉をいただいています。この日も目を輝かせた小学生に、分かりやすく丁寧に説明をしていました。

【中学生ボランティアガイド】(3-1)男子2名 (3-2)男子2名、女子1名 (3-3)男子2名、女子3名 (2-1)女子4名 (2-2)男子1名、女子1名 (2-3)男子2名、女子2名

ボランティア参加者は、肩から「南千住第二中学校」と書かれた学校カラー「セルリアンブルー」の「たすき」を掛けました。これは1年生男子生徒の保護者の方から学校に寄贈されたものです。これからも行事など様々な場面で活用させていただきます。ありがとうございました。



円通寺で黒門の説明



肩から寄贈されたたすきをかけて

連体選考会

連合体育大会に向けた校内の選手選考会が行われました。予定していた9月1日が雨天のため延期され、2年生は3日(水)に、1年生は清里移動教室後の9日(火)に実施しました。また、夏休み中に運動部の活動がほとんどない3年生は、7月18日(金)の終業式の午後に行われました。体育の先生の推薦を受けた選手候補や自ら名乗り出た三年生の合計約60名が全力で選考会に臨みました。選考会では短距離走、長距離走、投擲、跳躍に分かれ記録をとりました。この結果を参考に今後の練習も含めて総合的に判断し、短距離走(100m,200m,400m,800m)、長距離走(800m,1500m,3000m)、投擲(砲丸投げ)、跳躍(走り幅跳び、走り高跳び)の選手が決定されます。

これまで荒川区立中学校連合体育大会(連体)は国立競技場で行われてきましたが、全面改修のため今年度からは足立区にある舎人競技場で実施されます。それに伴い、全校参加ではなく、選手だけが行く形で行われます。応援団がなくなり、少し寂しいですが、選手はこれまで通り学校代表として出場します。選ばれた選手は南千住二中の名を背負い、学校の威信をかけて競技に臨んでほしいと思います。連体は9月25日(木)に行われます。大会での活躍のようす、結果等は次号に詳しく掲載する予定です。



参加者約60名



短距離走



走り高跳び

部活動の活躍

運動部は夏休みに4つの部が都大会に出場。また文化部も、吹奏楽部が都のコンクールに、パソコン部は入力コンクールに参加しました。どの部も大きな成果をあげました。

《陸上競技部》通信陸上競技東京都大会 共通女子200m走 3年生女子1名出場
1年生男子100m走 1年生男子1名出場

2人は9/13~14に行われた第26回東京ジュニア陸上競技大会兼第45回ジュニアオリンピック陸上競技大会東京代表選手最終選考会に出場しました。

《ソフトテニス部 女子》東京都総合体育大会兼選手権大会 団体戦 2回戦進出

《バスケットボール部 男子》東京都総合体育大会兼選手権大会 出場

《バレーボール部 男子》東京都総合体育大会兼選手権大会 2回戦進出

《吹奏楽部》東京都中学校吹奏楽コンクール 銀賞

《パソコン部》毎日パソコン入力コンクール 級取得者を紹介します。

第5部隊文A 準1級 3年生女子2名 2級 3年生男子4名、女子2名、2年生男子1名 準2級 3年生女子1名、2年生男子2名 3級 3年生男子1名、女子1名、2年生男子1名 4級 2年生男子1名 7級 3年生女子1名 8級 3年生男子1名第2部ローマ字 1級 1年生男子1名 2級 1年生男子1名、女子2名 準2級 3年生女子1名、1年生女子2名 3級 1年生女子1名 7級 1年生男子1名

【新人シード権大会】 サッカー部 第5ブロック8シード獲得 バスケットボール部 区シード権大会 男子5位 女子A3位 バレーボール部 区シード権大会2位 第2シード獲得

南千住マイスターのコーナー

昭和8年、この墓を守り、左内の功績を広めるために套堂(さやど)がつくられました。その後の改修のとき、回向院にあった旧套堂は荒川区に寄贈され、平成21年にふるさと文化館前に復元され、中には左内の銅像が飾られています。

ところで左内は、わずか数え15歳の時(現在の中学2年に、自ら奮いたたせるための『啓発録(けいはつろく)』)を著しています。その冒頭には5つの大事業が書かれてあります。それは、『稚心を去る』毎日遊び呆けて楽な方へと暮らし、何かと言えは親に頼ろうとするような子供じみた心は、早く捨てて、奮い立たせる事。『立志』目標をはっきりと決めて、それに向かつて努力する事。『勉学』学ぶ事とは、本を読んで知識を増やす事ではなく、先人に習って、自分も負けまいと努力し、真の知識を高め心を鍛える事である。『交友』交友を扱って、自分慕ってくれる友人は大切にしなければならぬ。また、自分の欠点を指摘してくれる厄介な友人を大切に、友人の見習うべきところは見習って、自らを高めてくれる友人を持つ。私たちの今の生き方に、ヒントを与えてくれる深い言葉とは感じませんか。一度全文を読んでみてはいかがでしょうか。

小塚原回向院には、前号で紹介した吉田松陰の他にも安政の大獄の刑死者の墓があります。橋本左内は、福井城下の藩医の長男として生まれ、幼い頃からその才覚は目を見張るものがあり、藩医を継いだ後、江戸に出て梅田雲浜や藤田東湖、かの有名な西郷隆盛らと交流をもちます。その後藩に呼び戻され、藩主松平春嶽の側近という役に就きました。安政四年(1857年)に江戸詰となり、再び江戸に戻ると、朝廷を尊重し、幕府の独断ではなく、諸侯による話し合いで事日米修好通商条約などを決断すべきといった自論を展開したり、日露同盟論、西欧の先進技術の導入など、世界的視野に立った国家思想を語り、幕府の、いや、この国の改革を主張します。さらに、そのとき持ちあがっていた一橋派と南紀派との將軍継承問題にも巻き込まれます。左内は一橋派。これら10月に捕縛され、翌年10月7日、斬首となり南千住回向院に葬られたのです。わずか26年の生涯でした。

南千住と歴史上の人物 その5 安政の大獄(2) 橋本左内



ふるさと文化館 橋本左内像・套堂